

ノブレスオブリージュ リーダーの影響力

8月は「日傘を買いました」「日傘を使う男性が増えましたね」という声が、私のところにたくさん届いてきました。8月号のコラム「日傘はじめました」の反響が、思ったよりも大きくて驚いています。リーダーは自分の影響を過小評価しても過大評価してもいけません。今回はリーダーという地位に伴う影響力についてお伝えしたいと思います。



独 立を視野に入れていた25年ほど前、竹村健一氏や渡部昇一氏、日下公人氏が執筆していた『月刊世相』を読んでいた。そこで竹村健一氏が紹介していたのがノブレスオブリージュという言葉です。意味は「地位の高い人に伴う義務」。つまり「人の上に立つリーダーは、世のため、人のために行動できるリーダーでなければならない」ということです。しがく式でもリーダーの心構えとして大事にしています。

二十歳の頃は、偉くなることやお金持ちになることがゴールで目的でした。しかし、勉強を重ねていくと、地位や権力を手にして偉くなった先に何をやるのが大切だということを学んだのです。お金を得て、いったい何に使うのか。地位も権力もお金も、世のため人のためになるような使い方をし、はじめて価値を為すのです。現在ではノブレスオブリージュという言葉の通り、能力を磨いたらその力を日本が良くなることに使おうと、日々励んでいます。キャリアアコンサルティングの場合は、働くことの意義を若者に教育をして社会に輩出するこ

とで、日本に貢献してきたと思います。

社長という地位を得た私ですが、社長になつたばかりの頃と、10年、20年経つた現在を比べると、歳を重ねることに周りへの影響力が増してきたと感じています。日傘、日本酒、ヴェリタスプロイ、TV番組、マンガなど、社内を見渡すと私の影響を感じるものがいくつもあります。リーダーの影響力は教育上、良い方にも悪い方にも出ることを強く感じています。

以

前、砂糖入りの缶コーヒーを好んで飲んでみると、皆、それを飲んでいました。健康を考慮してブラックに変えたら、社員もブラックが当たり前になっていき、最近では、水やお茶を飲んでいる人が圧倒的に増えていきます。リーダーがタバコを吸っていて、部下や会員の間にタバコを吸い始める人が増えたこともありました。以前、社員の喫煙率が減っていると予想して総務部に確認をした際、変わっていないことに愕然としました。禁煙した社員と同数の喫煙する社員が入社していたのです。学

生を担当している社員がタバコを吸っていると、その影響で学生がタバコを吸いだすという連鎖にぞつとしたものです。

会社を立ち上げた当初は、売上を上げることを目標に掲げていました。そのため、社員や会員もその旗のもと、我欲が強い人が集まってきました。しかし、社会貢献やくにまもりを経営の目的に掲げると、能力が高く、人としての魅力もある社員や会員に囲まれるようになったのです。

リーダーの言動は自分だけで留まるものではありません。地位が上がれば上がるほど、その影響が知らず知らずのうちに周りに波及します。しかも指導下というのは、不思議なことに真似をしてほしくないことほど真似をするものです。時間にルーズなリーダーの近くにいる人は、どんどんルーズになっていきます。楽なことほど人は真似をするからです。そのような人をたくさん輩出しては社会貢献どころではありません。リーダーになったからには自分の言動に責任を持って、周りに良い影響を出していくってほしいものです。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室館 勲
MURODATE Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。プータン王国立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパン 講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。